

## がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

## 1. 事業の具体的内容について

## (1) 自治体における取組

## ① 協議会について

## 1. 構成員

## ○全員で13人

大学教授1人（がん教育アドバイザー、がん専門医）、医療関係者2人（県医師会学校保健担当医、がん看護専門看護師）、がん経験者1人、校長2人（中学校・高等学校）、養護教諭1人、健康福祉部局1人、行政関係者5人（県教育委員会）

## ○連携先

秋田県医師会、秋田県看護協会、秋田県がん患者団体連絡協議会、秋田県保健福祉部局

## 2. 開催時期、検討内容

期 日	出席者	内 容
令和5年 8月30日	12名	第1回がん教育推進協議会 ・令和5年度秋田県がん教育推進事業について ・がん教室外部講師の確保について ・がん教育外部講師リストの作成について
令和6年 1月31日	13名	第2回がん教育推進協議会 ・令和5年度秋田県がん教育推進事業の成果と課題について ・外部講師リストの作成と活用について ・令和6年度秋田県がん教育推進事業について

## ② 教育委員会としての取組

## 1. がん教育アドバイザーの委嘱

## ○秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授 安藤秀明氏

## 【がん教育アドバイザーの役割】

- ・事業全般への指導助言
- ・がん教育推進協議会における指導助言
- ・外部講師研修会講師、外部講師への助言等

## 2. がん教室に外部講師（医師と経験者）を派遣

○中学校、高等学校、特別支援学校高等部11校に外部講師を派遣し、13校で実施（そのうち2校はオンラインを活用）

○がん教室の内容等については、「(2) モデル校における取組」に記載

## 3. がん教育指導者研修会の開催

○期日：令和5年11月2日

○場所：秋田県総合教育センター

○参加者：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員105名参加

- 内容：説明 「学校におけるがん教育について」 県教育庁保健体育課担当
- 講義Ⅰ 「がん専門看護師の立場から学校現場の職員に伝えたいこと」  
秋田大学医学部附属病院 看護部 がん看護担当看護師長 今野麻衣子氏
- 講義Ⅱ 「がん教育と親のがんを子どもに伝える」  
乳腺外科・内科 はしづめクリニック 院長 橋爪隆弘氏
- 分科会 「自校におけるがん教育の取組について」

#### 4. がん教室外部講師研修会の開催

- ・集合とオンデマンドの両方で開催予定だったが、大雨災害によりオンデマンドのみに変更して実施
- ・視聴期間：令和5年8月下旬～12月下旬
- ・対象：既存の外部講師リスト登録者、がん教育に関心のある医療従事者、がん経験者等
- ・受講者：18名（医療関係者11名、がん経験者7名）
- ・内容：資料説明 「学校におけるがん教育について」 県教育庁保健体育課担当
- 講義 「いかにしてがんを子どもたちと一緒に考えるか」  
秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授 安藤秀明氏

#### 5. 学校で活用する外部講師リストの作成

- 第1回推進協議会において、リストの作成方法等を検討
- 既存のリスト登録者、がん教室外部講師研修会受講者に趣旨を説明し登録票を送付
- 外部講師リストと活用マニュアルを学校に周知（予定）

### ③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

#### 1. がん教室外部講師研修会

- 県保健部局から秋田県がん患者団体連絡協議会に連絡の上、案内周知を依頼
- 医師会、看護協会を通して、関心のある医療関係者に案内を周知

#### 2. 秋田県がん対策推進計画

- 第4期秋田県がん対策推進計画の「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」の中に、学校における外部講師を活用したがん教育の実施率を目標として設定

### (2) がん教室実施校における取組

中学校9校、高等学校3校、特別支援学校高等部1校、計13校において、各学校の計画に基づき、医師とがん経験者をペアで派遣し、がん教室を開催した。

#### 【がん教室実施校】

学校名	テーマ
能代市立能代東中学校 能代市立二ツ井中学校	がん予防教室 ～がんについて考えよう～
三種町立八竜中学校	がんの正しい知識を学び、がん予防の生活習慣を身につけよう
秋田市立秋田北中学校	がん教室 ～今、自分にできること～
由利本荘市立鳥海中学校	がんについて知ろう！学ぼう！
大仙市立西仙北中学校	がんと生きる
仙北市立神代中学校	がんと生きるために
湯沢市立湯沢北中学校	あなたにとって「生きること」とは？

学校名	テーマ
湯沢市立皆瀬中学校	たくましく生きる～がんを学んで～
県立金足農業高等学校 県立新屋高等学校(オンライン)	がんについて正しく理解し、健康と命の大切さを考える
県立男鹿海洋高等学校	前半「がん」という病気と、検診、治療法 後半「がん」で大切な人を失わないために、自分に何ができるか
県立比内支援学校	がんについて関心を持ち、がんの予防や早期発見について正しい知識を身に付けるとともに、健康や命の大切さについて考える

【がん教室の実施が決まった学校の取組】

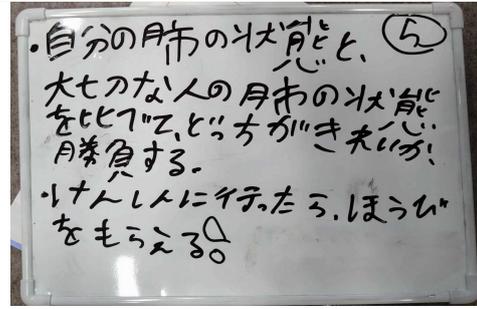
令和5年度 3月	希望調査	・希望日、対象学年、実施場所等を保健体育課に提出
6月	実施校決定	・がん教室に関する資料、外部講師連絡先、アンケート等を收受 ・外部講師に連絡し、がん教室と打合せの日時について確認 ・事前アンケートの実施
実施前	事前打合せ 事前指導	・生徒の実態、学校の要望等について打合せ ・事前アンケートを基に、講話内容等を決定 ・保護者、生徒にがん教室の実施、内容を周知し、配慮しなければならない生徒について把握し、外部講師と情報共有 ・要配慮生徒への面談等 ・事前指導の実施
実施2週間前	計画書提出	・予定日時、講師名、テーマ、事前指導計画等について、保健体育課に提出
8～12月	がん教室実施	・当日打合せで、要配慮生徒について再度確認 ・がん教室では、生徒の観察、演習等の支援
実施後	事後指導	・事後指導の実施 ・事後アンケートの実施
実施後 1か月以内	報告書提出	・実施日時、講師名、テーマ、内容の要旨、評価、アンケート集計結果等についてまとめ、保健体育課に提出

【がん教室の流れと内容】

がん教室は授業2時間分を使用して実施している。医師や経験者の講話内容は、学校と外部講師との事前の打合せで決定する。

1時間目	1 校長先生によるがん教室の趣旨説明 2 講話 医師によるがんの話 がん経験者による経験談
2時間目	3 演習 がんについて学ぶグループワーク 4 総括・質疑応答



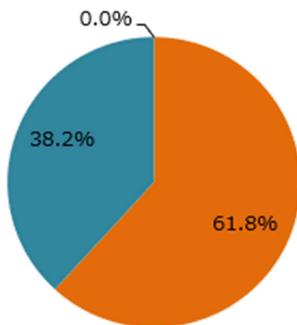


生徒の発達段階や実情に応じて内容を設定し、がんに関する正しい知識を身に付けるとともに、命の大切さを考えたり、がん患者への正しい認識を深めたりすることとおして、望ましい生活習慣について考えることができた。

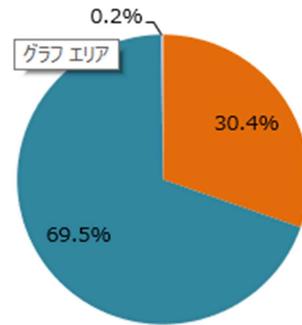
## 2. 事業の達成度について

### (1) がん教室事前・事後アンケート結果、感想の抜粋（がん教室実施校 13 校）

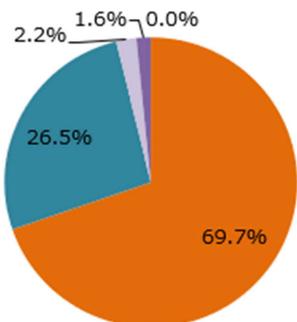
がんは日本人の死因の第2位である（実施前）



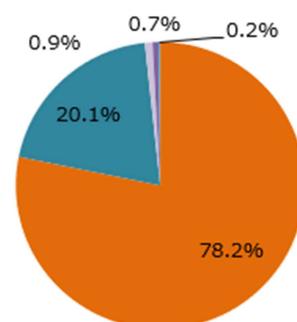
がんは日本人の死因の第2位である（実施後）



がんになっている人も  
過ごしやすい世の中にしたい（実施前）



がんになっている人も  
過ごしやすい世の中にしたい（実施後）



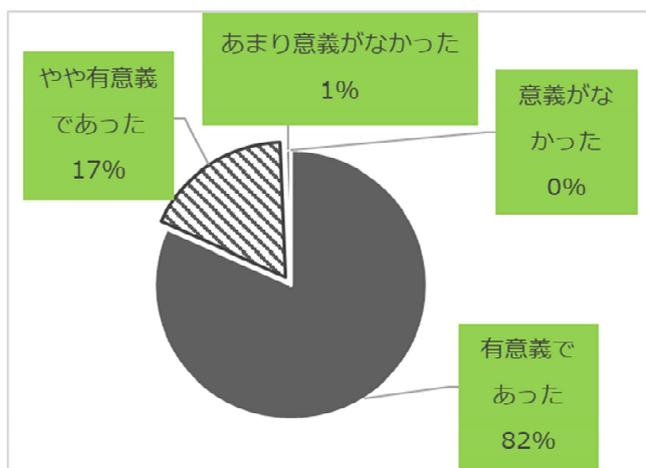
- ・がん細胞は、1日で5,000個も作られているということに驚いた。がんは、1cmになるまでに10～20年かかることを知り、今からできることをして、少しでもがんになる確率を下げられるといいと思う。
- ・今までがんは不治の病だ、死んでしまう病気だと思っていたが、がん教室を受けて、定期的ながん検診を受け、早期発見することでがんは治りやすくなること、バランスの良い食事や適度な運動、禁煙、禁酒を心掛けることでがんを予防できることを学んだ。
- ・がん教室をとおして、がん＝死の病ではないことが分かった。がんは仕事をしながら治療していく時代だという話を聞いて、これからそれぞれの会社や社会全体がこのような考え方に理解をもち、制度やシステムを改め、仕事と並立して治療を行っている人たちが働きやすい世の中になってほしいと思った。

- ・保健や理科の授業よりもがんという病気が現実のものとして身近に感じられた。予防のために何ができるか、友だちと考えを出し合えたことがよかった。

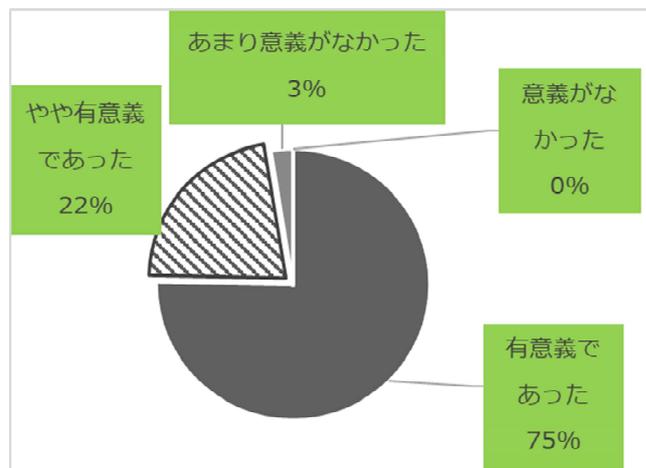
がん教室のねらいである、「がんに関する正しい知識を身に付ける」と「命の大切さを考えたり、がん患者への正しい認識を深めたりすることとおして、望ましい生活習慣の形成する」の両方について、事後アンケートの数値が高まっている。また、感想から医師、経験者、それぞれでなければわからない知識や心情、気持ちの変化を理解していることがわかり、子どもたちの心に残るがん教室を展開でき、ねらいの達成につながっている。

## (2) がん教育指導者研修会アンケート結果、感想の抜粋

【講義Ⅰ・Ⅱについて】



【分科会の協議について】

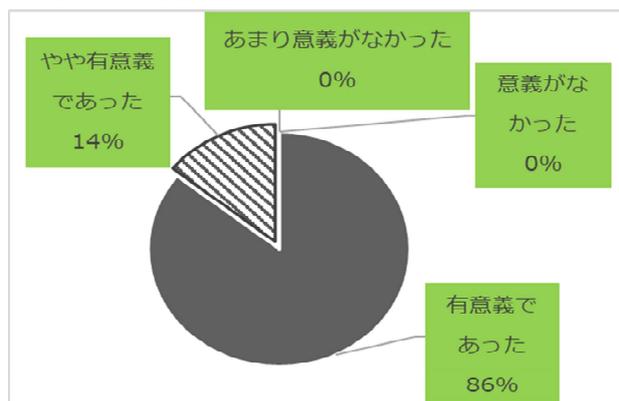


- ・保健体育の担当者だけでなく、教育課程の中にどのように位置付けられるか、教務主任や保健主事、学年主任などの参加を呼び掛け、学校として取り組む体制作りの説明があるといいと思う。
- ・がん教育を進めるに当たっての課題であった専門知識、資料の確保など解決策が見つかって活用していきたいと思った。
- ・がん教育講座で実施している内容を実際に体験したり、視察したりできれば、もっとイメージしやすい。

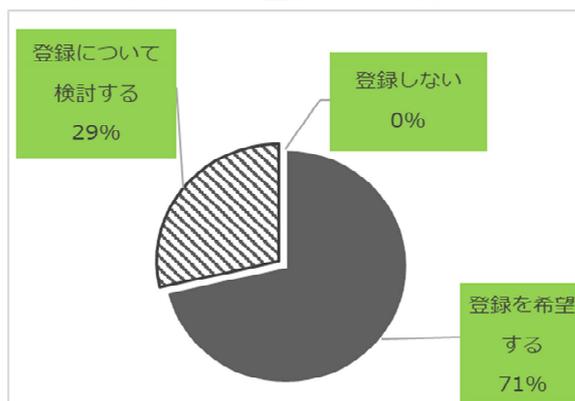
今年度は、4年ぶりに集合型で開催し、校種別の分科会で情報交換と協議を行った。お互いの学校の現状や課題を知ることができ、有意義だったとの感想が多かった。今年度のアンケートの感想や意見は次年度の研修内容等に生かし、分科会での協議もテーマを変えて実施したい。

## (3) がん教室外部講師研修会アンケートの結果、感想の抜粋（動画視聴後回答：7人）

【資料や研修動画について】



【外部講師リストの登録について】



外部講師研修会は、がん教室の内容の充実と、外部講師リストに登録する方の不安の解消に効果的であった。オンデマンドでの実施だったが、外部講師の同士のつながりを深めるためにも、次年度は集合方とオンデマンドの両方で実施したい。

### 3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育アドバイザーに外部講師の研修や、がん教室を行うに当たっての不安に対してフォローしていただくことで、外部講師を増やすことにつながった。今後も外部講師を安定的に確保し、がん教室の内容の充実のためには、外部講師研修会等を継続して実施していく必要がある。
- ・がん教室の実施を希望する学校数は年々増加傾向にあるが、本課から希望校すべてに外部講師を派遣することが難しい状況である。実施校を増やす取組として、2校でオンラインを活用してがん教室を実施した。接続校で、動画がうまく流れない、話をしている医師の表情が見えないなどの課題があり、実施方法については学校の機材等に合わせて改善していく必要がある。
- ・がん教室の実際を知っていただくため、実施校のがん教室を公開授業として、地域の先生方、外部講師候補者が参観できるようにしていく。

### 4. がん教室実施校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・学校における外部講師を活用したがん教育の推進には、管理職を含めた学校の教職員の共通理解が必要である。教員向けのがん教育指導者研修会には、管理職や保健主事の参加を呼びかけ、保健体育科教員や養護教諭だけでなく、学校全体で取り組む体制づくりについて周知する必要がある。
- ・外部講師を活用したがん教室を、各校で実施しやすくするために、学校から直接外部講師に依頼できる外部講師リストと活用マニュアルを作成した。運用していく中で、学校が活用しやすいよう、定期的に見直し、更新していく必要がある。